

令和5年度

小金井平和の日記念行事

「平和作文集」

小金井市

はじめに

現在、本市では、先の大戦において犠牲となられた方々を悼み、恒久平和を祈念して小金井市戦争犠牲者追悼式を3年ごとに行っています。昭和28年には、戦争による犠牲者の霊を慰めるとともに戦争の惨禍を忘れず、再びかかる不幸を繰り返すことのないよう、私たちの平和を祈念する記念碑として小金井町戦争犠牲者慰霊碑を建設し、同年12月20日には、その除幕式及び慰霊祭を行いました。また、平和に関する宣言として、昭和35年10月3日には、地方自治体が平和の尊さを訴え、世界連邦運動に賛同を表する「世界連邦平和都市宣言」を行い、昭和57年4月1日には、世界で唯一の核被爆国として、また、平和憲法の本質からも、核兵器の全面廃絶と軍備縮小の推進に積極的な役割を果たすべきとして「小金井市非核平和都市宣言」を小金井市議会において行っています。そして、昭和54年3月20日に制定された「小金井市市民憲章」の中でも、平和を願う市民の強い思いを示しているところです。

本市ではこれまで、平和都市として未来の子どもたちに平和な世界を継承していくために、戦争の悲惨さと、平和の大切さを発信し続けていくことが必要であると考え、「平和行事参加の旅」、「非核平和横断幕」、「原爆パネル展」、「非核平和映画会」など、様々な平和事業を継続して展開してきました。また、「日本非核宣言自治体協議会」及び「平和首長会議」にそれぞれ加入するなど、平和を希求する自治体としての姿勢も示しているところです。

そして、平成26年12月18日に戦後70年の節目を迎えるに当たり戦争の記憶を風化させないため、改めて平和の大切さや命の尊さを語り合い、考える機会をつくるため、「小金井平和の日条例」を制定しました。

この文集は、同条例に基づいて実施した平和の日記念行事における作文コンクールの応募作の中から4編を選定し、文集にしたものです。ご覧いただき、未来の子どもたちに平和を引き継いでいくため、共に「平和」について考える機会にしていいただければ幸いです。

令和6年3月

企画財政部広報秘書課

目 次

○小金井平和の日記念行事作文コンクール

【入賞作文】

小学生の部 大賞

「平和をいのることが未来へつなぐこと」

谷 昌悟（小金井第四小学校 3年生）・・・・・・・・・・ 1

小学生の部 優秀賞

「ひばく校で学んだこと」

打越 日々希（緑小学校 4年生）・・・・・・・・・・ 3

中学生の部 大賞

「平和のために」

豊嶋 琴葉（東中学校 1年生）・・・・・・・・・・ 5

中学生の部 優秀賞

「自分にできる事～平和への第一歩～」

山下 結衣（東中学校 1年生）・・・・・・・・・・ 7

小学生の部 大賞

「平和をいのることが未来へつなぐこと」

谷 昌悟（小金井第四小学校 3年生）

ぼくは、この夏広島に行き、とうろう流しを見ました。「いつまでも平和でありますように」といういのりのメッセージがみえました。川の上をゆっくりと流れるとうろう一つ一つに、平和へのいのりがこめられていることを知りました。ぼんやりと光っていてげんそうてきでした。

母は広島県出身です。子供のころにはおり紙でおりづるをおったり、ひばくしゃの話を聞いたり、原爆資料館に行ったり、いれいひについてしらべたりしたそうです。そうやって子供のころから平和について考えてきた、と言っていました。

今のぼくたちはどうだろう、と思います。広島では毎年八月六日にもくとうをしていることをはじめで知りました。テレビでは、被爆映像やその様子をえがいたアニメが流れているのを見ました。平和公園や原爆ドーム前は人でいっぱい、原爆の日にこんなにも人が集まるのかとおどろきました。

各国のえらい人たちが集まって、お好み焼きを作って食べているのをニュースで見ました。二十八人もの人が同じ食材で料理し、同じものを食べて楽しそうにしているのを見て、ぼくも楽しく思いました。言葉も文化もちがう二十八人が一緒に食事をする様子は、国や人しゅはかんけいがないように見えました。この集まりは今年がさい多人数のさんかだそうです。国をせおったえらい人たちが、なかよくすごすことはとてもいいことだと思いました。なかよくすればあらそいはおきないし、もし何かあったときにおさえる力になるからです。

ぼくはどうしてみんないのるんだろう、と考えました。そして、いのることにか去を知り、未来につなげ、せんそうがおきないようにしようといういきが生まれ、平和につなげているのではないか、と思いました。

ぼくはコロナ前にとうろう流しをしたことがあります。メッセージを書いて、火をつけたとうろうを川にそっと流して、手をあわせました。その

ときは何も考えなかったけれど、今はちがいます。ぼくの平和は、毎日安心安全にすごすことです。国みんなが安心安全にすごせるよう、国の首相は各国のえらい人と集まり、あらそいがおきないように考えてくれていることを知りました。平和について考えたことで、ぼくは今年のGセブンサミットや、ロシアとウクライナのせんそうを知りました。広島のこともたくさん知りました。まだまだ知らないことが多いけれど、これからたくさん勉強して、世界のことを知り、平和とは何か考えていきたいと思います。

小学生の部 優秀賞

「ひばく校で学んだこと」

打越 日々希（緑小学校 4年生）

「かべにのこったらくがきの おさない文字の あの子の名 呼んでひそかに 耳すます ああ あの子が生きていたならば」

この曲は、長崎の山里小学校の第二校歌で、題名は「あの子」といいます。

私は父の転きんで、一年生から三年生の一学期まで長崎に住んでいました。私が通っていた山里小学校（山小）はひばく校で有名な学校でした。長崎に原子ばくだんが落とされたことは有名ですが、その時に山小は、ひがいにあい、たくさんの子どもが命を落としました。

そのため、山小には「あの子らのひ」といういれいひがあり、後ろには、たくさんの千羽づるがかざってありました。あの子らのひは、毎日担当のクラスの人がきれいにそうじをしていました。

私が、あたり前にとおっていた通学路が、七十年ほど前は、やけ死んでしまった人や、水がほしくて苦しんでいる人であふれていたなんて、そうぞうするだけで、おそろしいと思いました。私があたり前に勉強していた学校も当時はやけ野原だったこともそうです。

私は、戦争なんて、する意味がないと思います。私は、この世に戦争は必要ないと思います。

ただあたり前に、自由で、平和で、幸せな毎日をだれでもおくれる世界になってほしいです。

戦争なんてなくて、いいです。いいえ、しないでください。

戦争は、幸せのえがおを、悲しみ、苦しみのなみだに変えるんですから。

長崎に転校すると聞いたときはかなしかったけど、転校したおかげで、この数すくない「ひばく校」で勉強することができて、「平和の美しさ」と「戦争のおそろしさ」を知ることができました。私は、長崎で教わったこと、自分の思いを伝えたくて、この作文を書きました。

いつか戦争がなくなりますように。

中学生の部 大賞

「平和のために」

豊嶋 琴葉（東中学校 1年生）

私は、今年の夏休みに原爆ドームと平和記念資料館に行きました。私はそれまで戦争のことについてあまり深く考えたことがありませんでした。しかし平和記念資料館で戦争の現実を知って、私はみんなが自分ごとにして戦争について本気で考えなければいけない、と思いました。

私が平和記念資料館に行って一番心に刺さったのは戦争で亡くなってしまった人たちが実際に使っていたものでした。ボロボロの服や焼け焦げた三輪車、血のついた水筒などもありました。写真やイラストではなく実物を見ると、原爆が落ちるまでずっと生きていたという事実や、たった一つの原爆がもたらした被害が、今まで自分が思っていたよりもすごく重く感じられました。

日本のように爆弾が落ちた建物をそのまま残している国はないけれど、戦争の愚かさや残酷さを実感している国はたくさんあると思います。みんな戦争がもたらす被害を知っているのになぜ戦争はなくなるのか、と私は思いました。授業の中で戦争に関するビデオをたくさん見て、私は「平和」に対する考え方が人それぞれ違うのかな、と思いました。平和のために核兵器を持つと言っている国があります。確かにすべての国が核兵器を持って、少しでも嫌なことがあるたびに「核兵器を落とすぞ！！」と脅せば、戦争はなくなるかもしれません。しかし、私はそれぞれの国が脅し合って戦争をしないことを平和であるとは思いません。平和とは、お互いが相手のことを考えて自分たちの言動や行動に責任を持ち、のびのびと暮らすことだと私は思います。そのために核は必要でしょうか。私は、核があっては平和な世界は成り立たないと思います。

では、核兵器のない社会はどうやったら作れるのでしょうか。授業で見たビデオでは、「それぞれの国が落ちついてしっかりと話し合いをすれば、戦争をなくすことは可能なのではないか。」と多くの人が言っていました。私もずっと、話し合いをすれば戦争はなくすことはできると思っていました。

た。しかし、そのビデオに出ていたウクライナの方が「話し合いをしたくてもできない状況もある」と言っていました。私はその言葉にすごく考えさせられました。“話し合いができない状況”というのは、具体的にどういう状況なのか。私は、それぞれの国同士で格差があって、ウクライナはロシアと対等な話し合いができない状況なのかな、と考えました。世界全体が平和になるには国同士の格差はあってはならないと思います。そのためにはお互いが相手のことを考えて言動や行動に責任を持って政治をするべきだと私は思います。

世の中を平和にするためには国の偉い人たちだけが頑張るのではなく、一人ひとりが自分ごとにして考えるべきです。今実際に戦争を経験した人はすごく少なくなっていて、若い人たちはなかなか自分ごとにして考えるのは難しいかもしれません。だからこそ、学校の授業で平和についてみんなで考える時間をとったり、広島に行って原爆ドームを見たりして、戦争がどんなに残酷でひどいことなのかを知る必要があると私は思いました。

中学生の部 優秀賞

「自分にできる事～平和への第一歩～」

山下 結衣（東中学校 1年生）

「誰が悪い」かを決めることが戦争の始まりなのではないか。戦争に関する文献や資料、映像や実際に話を聞いたりして私はこの結論に至った。これは、普段の人間関係などにも同じことが言えるのではないかと思う。そしてすべての人がそれをやめれば、平和は実現するのではないだろうか。

私自身も戦争なんてなくなればいいと考えている。戦争で巻き込まれ自分の命や大切な人の命を落とすことは、誰でもきつと嫌な事だろう。だが、多くの人がそう考えても戦争は現在も続いている。

ウクライナ侵攻が一番印象に強い。政治的にも歴史的にも複雑な過去を持っていた二国間での戦争。どちらかが悪く、どちらかが被害者。けっしてそのように一言で言えるほど単純ではなく、そのように決めつけるべきではない。私の周りを見ていると、ほとんどの人がロシア側が悪と考えている。「侵攻を開始したのはロシアであり、ウクライナは侵攻を受け側だ。だから悪いのはロシアであり、ウクライナは悪くない。」確かにその考え至るのは自然かもしれない。しかし、果たして本当にそう言い切れるだろうか。私の周囲ではその二国間だけの出来事として捉えている人がほとんどだが、その二国間だけの出来事なのだろうか。「どちらが悪くてどちらかが悪くない」と簡単に区別できるものなのだろうか。

普段の生活で例えてみよう。AさんがBさんと喧嘩をしたとする。このとき、Aさんは自分が正しく、Bさんが間違っていると考えられるかもしれない。その考えを持ったまま、Cさんに話したとする。そうすると「Bさんが間違っている」と考えているため、話が誇張されたり、偏った内容になってしまいかねない。その話を聞いたCさんは、Bさんが間違っていると感じる。CさんはAさんを可哀想だと思い、Bさんに対して注意したり、距離をおいたりすることもありうるだろう。この際Cさんに必要なことは、Bさんにも直接話を聞いてみることだ。両者の話を聞くことでAさん

もBさんも互いに理由があったことに気がつくことができる。そうすれば「一方が正しく、一方が間違っている」といった思い込み、決めつけを取り払うことができる。

私は普段の生活でもこのことに気をつけている。友達が誰かのことを悪く言っている、その人と実際に話してみてもうなのか考えるようにしている。話を鵜呑みにすることは、相手の思惑通りになってしまったり誤解を招いたりしてしまうことがある。それが原因で相手との関係が悪くなってしまうこともあるだろう。話を鵜呑みにせずに、実際に自分で確認して、双方の意見を聞くようにする。そうすればこのようなことは避けることができると感じている。

三つの例を出して説明したが、戦争の原因はこのような「誰が悪いか」を決めようとする考え方だと思う。このような考え方が無くなれば、世界から戦争はなくなるはずだ。全世界の人がこれを実行することは難しいかもしれない。しかし、私たちひとりひとりにだってできることもある。誰かの責任にしてしまう事は簡単だし楽だ。だからこそ人はこうして争いを起こしてしまうのかもしれない。自分にもできる平和の一步として、人の言葉を鵜呑みにして「誰が悪い」と考えるのではなく、自分の目でしっかりと確認して判断してほしい。それが平和実現に近づく第一歩だ。

平和作文集

発行 令和6年3月
小金井市

編集 小金井市企画財政部広報秘書課広聴係
小金井市本町六丁目6番3号
☎ 042-387-9818